長崎県感染症情報センター

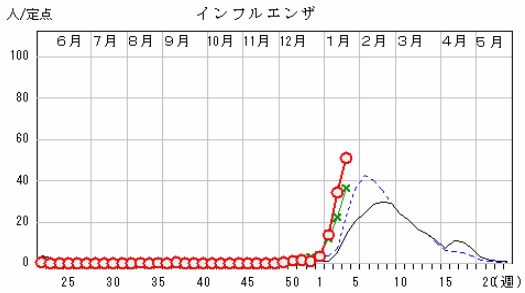
長崎県感染症発生動向調査速報

平成25年第4週　　平成25年１月21日（月）～平成25年１月27日（日）

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位３疾患）の発生状況

（１） インフルエンザ

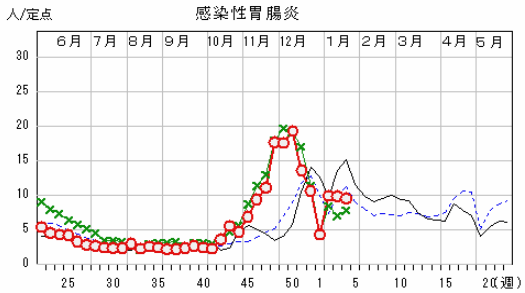
第04週の報告数は3564人で、前週より1149人多く、 定点当たりの報告数は50.91であった。
年齢別では、10～14歳（709人）、30～39歳（263人）、15～19歳（244人）の順に多かった。
保健所別の定点当たり報告数は、壱岐保健所（77.33）、県南保健所（62.88）、佐世保市保健所（59.18）が多かった。



（２） 感染性胃腸炎

第04週の報告数は420人で、前週より11人少なく、 定点当たりの報告数は9.55であった。

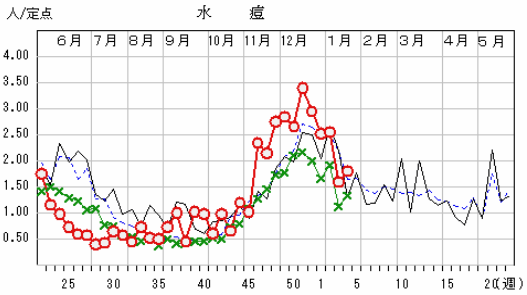
年齢別では、10～14歳（68人）、１歳（63人）、２歳（44人）の順に多かった。
保健所別の定点当たり報告数は、五島保健所（15.25）、県北保健所（14.67）、県南保健所（11.20）が多かった。



（３） 水痘

第04週の報告数は79人で、前週より9人多く、 定点当たりの報告数は1.80であった。

年齢別では、１歳（25人）、２歳（15人）、３歳（15人）の順に多かった。
保健所別の定点当たり報告数は、県南保健所（3.60）、県北保健所（3.33）、佐世保市保健所（2.83）が多かった。



当年(長崎県)　前年(長崎県)
当年(全国)　前年(全国)

☆季節情報

【インフルエンザ】
長崎県における第4週の報告数は前週の2415人から1149人増加して3564人でした。定点当たりの人数も前週の34.5からインフルエンザの警報レベル「30」を超える50.91までに上昇しました。このような状況から長崎県では1月24日に”インフルエンザ流行警報”が発令されているところです。地域別にみると、上五島地区（4.67）のみ注意報レベル「10」に達していないものの、その他の地域ではいずれも高値を示しています。特に壱岐地区では77.33、県南地区で62.88、佐世保地区で59.18、長崎市地区で55.29、県北地区で51.00と警報レベルをはるかに超えています。県内の医療機関や介護施設などでは面会制限を講じている施設もあるようです。例年通り、正月休み以降本格的な流行が始まりましたのでこのまま推移すると1月下旬～2月上旬には流行のピークを迎えるものと思われます。年齢別にみると、小・中・高世代が全体の1/3を占め、学校等での流行がみられていますので、今後の動向 に注視し、感染予防に心掛けましょう。
インフルエンザには抗インフルエンザ薬がありますが、予防にはワクチン接種が有効な手段の一つです。今週は幾分温かいようですがまだまだ寒い日が続きます。小さいお子さんや高齢者はもとより、受験生の方も体調管理に十分気をつけましょう。また、外出からの帰宅時にはうがい、手洗いの励行、マスクなどによる「咳エチケット」で積極的な感染防止に努めましょう。

【感染性胃腸炎】
第4週の感染性胃腸炎の報告数は420人で、前週より11人減少し、ほぼ横ばいに推移しています。定点当たりの人数（9.55）は、全国定点当たりの人数（7.85）を上回っています。県下全域から報告があり、五島地区で15.25、県北地区で14.67と高値を示しています。例年冬場は報告数が増加傾向にありますので、今後の動向に注視していく必要があります。

例年10月から11月にかけて流行の立ち上がりが見られ、12月中旬頃がピークとなる傾向にあることから11月13日には、厚生労働省より、「感染性胃腸炎の流行に伴うノロウイルスの予防啓発について」の通知が出されたところですが、本疾患による患者数の全国的な増加が、同時期では過去10年で平成18年に次ぐ高い水準であることから、11月27日に同省から「感染性胃腸炎の流行状況を踏まえたノロウイルスの一層の予防啓発について」の通知が出されました。全国的にも減少傾向にあるようですが、まだまだ十分な注意が必要です。

感染性胃腸炎は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くは1～2歳の乳幼児が占めています。原因はロタウイルス、ノロウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

原因微生物のうち、ロタウイルスについては2011年7月にワクチンが製造承認され、2012年7月には国内2製品目が発売されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に、小さいお子さんがいらっしゃるご家庭では、保護者の方が手洗いの励行、体調管理や体調の変化に心掛けてあげるなどして感染防止に努め、早目に医療機関を受診させてあげるよう心がけましょう。

【水痘】

長崎県における第4週の報告数は、前週より9人増加して79人で、定点当たりの人数（1.80）は全国定点当たりの人数（1.34）を上回っています。壱岐・対馬地区を除く県下全域から報告がありましたが、注意報レベルの「4」を超える地域はありませんでした。

この疾病は、例年、冬場に患者数が増加する傾向にありますので、今後の動向に注視していく必要があります。

水痘は水疱瘡（みずぼうそう）とも呼ばれ、原因となる水痘帯状疱疹ウイルスは伝播力が強く、ウイルスを含む飛沫あるいは飛沫核を経気道的に吸入することによる飛沫感染あるいは水泡の内溶液と触れることによる接触感染により感染が成立します。　手洗いの励行、体調管理に心がけ感染防止に努めましょう。

☆トピックス：インフルエンザによる学級・学年・学校閉鎖が増えています。

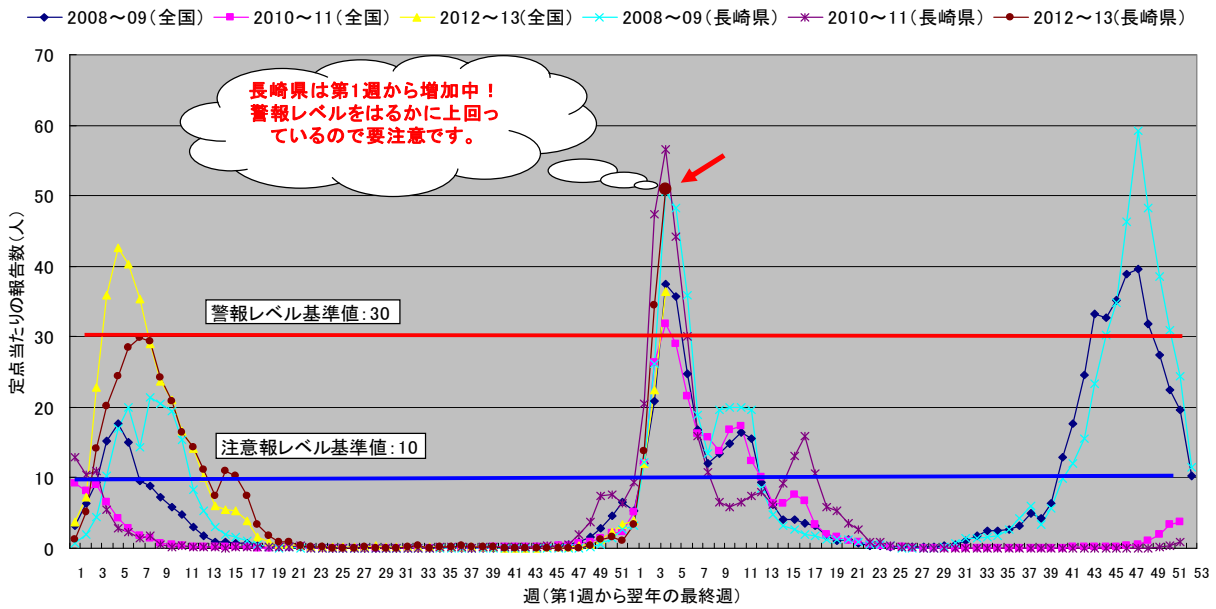
今期、長崎県では24年12月4日にシーズン初の臨時休業措置がとられましたが、今年1月30日までに、休校6件、学年閉鎖51件、学級閉鎖111件の措置がとられ、本格的な流行シーズンに入りました。

本県の第4週の定点当たりの報告数は警報レベルを超え（50.91）、報告も県下全域からあがっていることからも今後の感染拡大が懸念されます。

また、1月に当研究センターにインフルエンザと診断され、搬入された患者の検体について検査を実施したところ、全例A/H3、いわゆるA香港型インフルエンザウイルスの遺伝子が検出されています。

年齢別でみると、10～20歳代が多く、次いで30歳代での報告が多くあがっています。

平成24年4月1日から学校保健法施行規則が一部改正され、「出席停止の指示」について改正前は、「解熱した後二日を経過するまで」でしたが、改正後は「発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日（幼児においては3日）を経過するまで」となっています。インフルエンザに感染し発症した園児や学童、生徒さんには十分な休養をとらせるよう保護者が心がけることにより新たな感染の拡大防止につながります。ワクチン接種による予防はもとより、手洗いの励行、外出先から帰宅した際のうがい、人ごみに入る際はマスクの着用などで、よりいっそうの注意が必要です。積極的な感染防止に努めましょう。



インフルエンザの定点当たりの報告数の推移（2008年～2013年第4週まで）

インフルエンザ・長崎県(2013年第4週)

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前	
	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況
佐世保市	59.18	○	30.7	○	11.2	△	1.64	−	0.73	−	0.73	−
長崎市	55.29	○	37.7	○	14.7	△	2.65	−	0.94	−	1.82	−
壱岐	77.33	○	61.7	○	18.3	△	7.67	−	0.33	−	-	−
西彼	49.00	○	30.5	○	11.2	△	1.5	−	0.83	−	-	−
県央	46.70	○	27.9	○	17.7	△	1.9	−	0.2	−	0.3	−
県南	62.88	○	64.4	○	21.9	△	9.13	−	1.63	−	0.13	−
県北	51.00	○	30.3	○	14	△	5.5	−	8	−	17.5	△
五島	37.80	○	17.6	△	6.4	−	2.4	−	0.2	−	-	−
上五島	4.67	−	4.33	−	3.67	−	3	−	0.33	−	-	−
対馬	23.33	△	17.3	△	5.33	−	3	−	-	−	-	−
長崎県	50.91	○	34.5	○	13.7	△	3.41	−	1.13	−	1.61	−

○:警報レベル
△:注意報レベル
ー:警報・注意報なし

警報・注意報レベルの基準値(定点当たり報告数)

警報レベル		注意報レベル
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10

☆トピックス：感染性胃腸炎（ノロウイルス）に気をつけましょう。

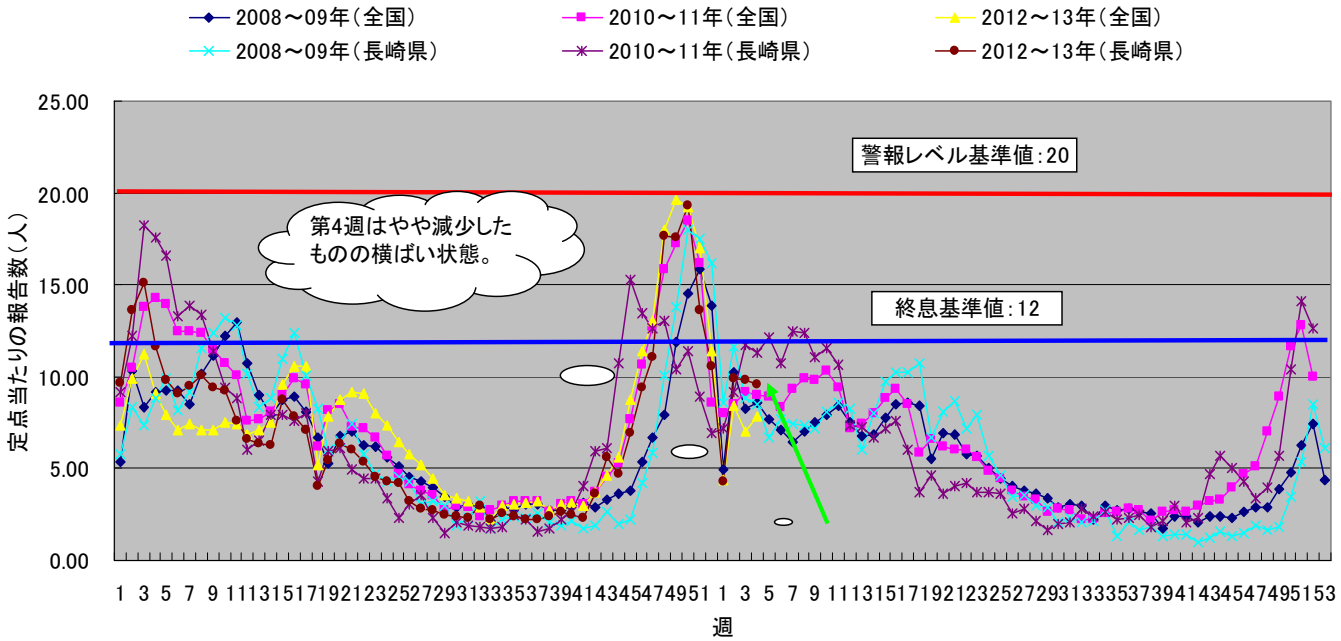
昨年から、特にノロウイルスによる感染性胃腸炎の流行が懸念されており、各地で本ウイルスによる大規模な食中毒や福祉施設等での感染症関連のニュースが取り上げられています。

本県においては現在、感染性胃腸炎の報告数は終息基準値「12」以下となり、ほぼ横ばいに推移していますが、まだまだ寒く、体調を崩しやすい時期でもありますので、引き続き感染防止対策に努めましょう。2009年の新型インフルエンザ流行の際、手洗いの積極的な励行やマスクの着用等の公衆衛生意識の向上に伴って、感染性胃腸炎の流行も極端に抑制されたことから、手洗いの励行は、簡便かつ有効な手段であると考えられます。

ノロウイルスの潜伏期間は1～2日で症状の持続期間は数時間～数日です。症状は他の胃腸炎ウイルスと同様に嘔気、嘔吐、下痢が主で、腹痛や発熱を認める場合もあります。乳幼児から成人に至るあらゆる年齢に感染します。

万が一発症した場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。

（参考:厚労省HP　http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/03.html#link01　）



感染性胃腸炎における2008年から13年第4週までの推移

◆全数届出の感染症

１類感染症： 報告はありませんでした。
２類感染症： 結核患者、男性（70代・1名）、女性（70代・1名）の合計2名の報告がありました。
３類感染症： 腸管出血性大腸菌感染症無症状病原体保菌者、女性（50代・1名）の報告がありました。
４類感染症： 報告はありませんでした。
５類感染症： 定点把握疾患の報告はありませんでした。

◆定点把握の対象となる5類感染症

（1） 疾病別･週別発生状況 （第51～4週、12/17～1/27）

疾患名	定点当たり患者数					
	51週	52週	1週	2週	3週	4週
	12/17～	12/24～	12/31～	1/7～	1/14～	1/21～
インフルエンザ	1.61	1.13	3.41	13.74	34.50	50.91
ＲＳウイルス感染症	1.18	1.09	0.52	0.52	0.52	0.52
咽頭結膜熱	0.73	0.41	0.18	0.25	0.23	0.11
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1.89	1.36	0.48	1.34	1.18	1.27
感染性胃腸炎	13.55	10.59	4.30	9.91	9.80	9.55
水痘	3.39	2.95	2.52	2.55	1.59	1.80
手足口病	0.20	0.43	0.07		0.11	0.02
伝染性紅斑（リンゴ病）		0.07			0.05	
突発性発しん	0.41	0.52	0.14	0.48	0.64	0.36
百日咳	0.07					
ヘルパンギーナ	0.05	0.05		0.14	0.23	0.11
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.70	0.75	0.27	0.50	0.52	0.25
急性出血性結膜炎			0.50	0.50	0.63	0.75
流行性角結膜炎	0.38	0.25	0.13	0.25	0.38	0.13
細菌性髄膜炎				0.08		
無菌性髄膜炎					0.08	0.08
マイコプラズマ肺炎	0.42	0.50	0.25	0.33	0.25	0.33
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）						0.08

（2） 疾病別･保健所管内別発生状況 （第4週、1/21～1/27）

疾患名	定点当たり患者数(県･保健所管轄別)										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	50.91	59.18	55.29	77.33	49.00	46.70	62.88	51.00	37.80	4.67	23.33
ＲＳウイルス感染症	0.52		1.00			0.17	1.40		1.25		
咽頭結膜熱	0.11		0.20					0.33	0.50		
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1.27	0.67	0.70		2.75	3.00	0.80	1.67	1.25	0.50	0.50
感染性胃腸炎	9.55	7.33	9.00	1.50	4.50	10.83	11.20	14.67	15.25	8.50	11.00
水痘	1.80	2.83	1.50		0.50	2.33	3.60	3.33	0.25	1.00	
手足口病	0.02					0.17					
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.36	0.17	0.40			0.67	0.40	1.67			
百日咳											
ヘルパンギーナ	0.11				0.25		0.80				
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.25		0.40		0.25	0.33		1.33			
急性出血性結膜炎	0.75	5.00	0.33								
流行性角結膜炎	0.13		0.33								
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.08					1.00					
マイコプラズマ肺炎	0.33				1.00	1.00		2.00			
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）	0.08					1.00					